

新しい検診車が導入されました

宮崎県「地域のげんき臨時交付金」の補助を受けて、3台の検診車を導入しました。
今回は導入された検診車をご紹介します。

乳がん検診車

当協会ですべて検診車にマンモグラフィ装置と超音波診断装置が搭載され、同時に検査できるため、受診者の負担が軽減されるようになりました。



女性がかかりやすいがん第1位です。
30代から急増し、40～50歳の女性に多く見られます。
乳がん検診報告(協会)

年度	受診者数	がん発見数
平成23年	5,154人	15人
平成24年	5,628人	24人
平成25年	6,458人	24人

● 超音波診断装置

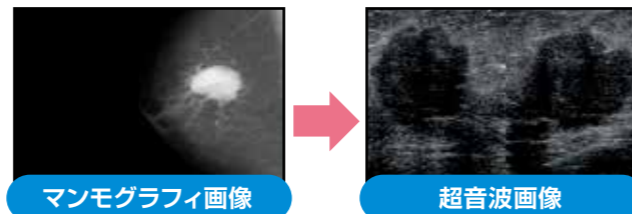


● マンモグラフィ装置



【乳がん症例】

超音波装置で同じ腫瘍を見てみると...



マンモグラフィ画像

超音波画像

超音波画像参考資料：厚生労働省 国民生活基礎調査 地域地域保健・健康増進事業報告書

胸部検診車

車椅子での乗降が出来るようリフトを備えており、介助する方の負担が少なく受診者も安心して利用できます。また、従来の検診車に比べ、コンパクトになりました。



日本人のがんによる死亡原因トップ!!
肺がんは圧倒的に男性が多く、好発年齢は50～60歳代です。

胸部がん検診報告(協会)

年度	受診者数	がん発見数
平成23年	151,334人	70人
平成24年	150,471人	59人
平成25年	146,222人	72人

● 撮影室



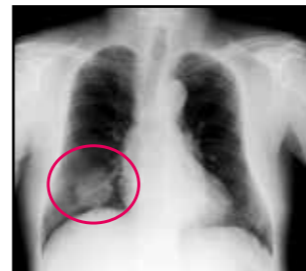
● リフト



【正常例】



【肺がん症例】



胃がん検診車

当協会ですべて検診車に撮影診断装置を2機搭載したことにより、待ち時間が短くなり、検診を円滑に行う事ができるようになりました。



胃がん好発年齢は40～50歳代ですがスキル胃がんに限っては30～40歳の若い世代に多い特徴が見られます。

胃がん検診報告(協会)

年度	受診者数	がん発見数
平成23年	32,497人	35人
平成24年	34,720人	33人
平成25年	35,563人	46人

● 第1撮影室



● 第2撮影室



【正常例】



【胃がん症例】



定期的になん検診を受けましょう!!

厚生労働省は「がんによる死亡者の減少」「すべてのがん患者およびその家族の苦痛の軽減、療養生活の質の向上」をスローガンに掲げ、がん早期発見のためがん検診受診率50%を目標としています。年々がん検診者は増加しているものの、平成25年の受診率データでは肺がん検診37.4%・胃がん検診33.8%乳がん検診34.2%と厚労省が掲げる50%の目標値には達していません。

さらに宮崎県のがん検診受診率は、全国において肺がん第36位・胃がん第31位・乳がん第44位と低い順位となっています。

がんは、早期の段階で発見し治療を受ければ、約9割の方が完治と言われていますが、自覚症状がないため早期発見するには定期的ながん検診の受診が重要です。

『症状がないうちに、がん検診受診を!!』

主な部位別がん死亡数

